

## 『呼人は旅をする』



長谷川 まりる／著  
偕成社 JFハ



何かを呼び寄せる力を持った人たちは「呼人」と呼ばれる。雨、花、人間…呼び寄せるせいで周囲に影響を与えてしまう彼らは、故郷から離れて暮らさなければならなかったり、ひとつの場所に留まることが許されなかったりする。  
しかし、友だちとも家族とも別れて旅をする呼人は、本当にひとりぼっちなのだろうか？

## 冬のイベント★参加者募集！

### ビブリオバトル

日 時 令和7年12月21日(日)・令和8年1月25日(日)  
15:00~16:00  
場 所 狭山台図書館 2階 視聴覚室  
対 象 小学生~大人  
申 込 不要  
持ち物 おすすめの本1冊



《さやまの100冊》「子どものときに読みたい本100冊」(さやまの100冊)は教育委員会がおすすめしている本です。ぜひ、読んでみてください。



図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。

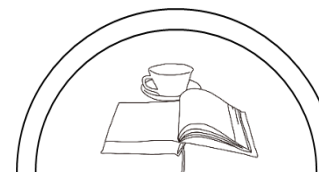
イベント、開館時間、休館日等の最新情報もこちらからご確認ください。

狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646  
狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801  
狭山市公式HP <https://sayamalib.jp/>



# YOMUZO TIMES

よむぞう タイムズ  
FOR TEENS  
第6号



## 隣にいと、世界が広がる



### 『タフィー』

サラ・クロッサン／作 三辺 律子／訳  
岩波書店 JFク

予約はこちら／



家出をして遠くの町まで来たアリソンは、納屋に逃げ込んだところを、家主のマーラに見つかってしまう。しかし、認知症を患っているマーラは、アリソンのことを古い友人タフィーだと思い込み、家に招き入れた。アリソンは、老いたマーラが望む人物のふりをしながら同居することに。ときには不審者として追い出され、ときにはタフィーとして過ごす。しかし、そんな生活が続くはずもなく…。

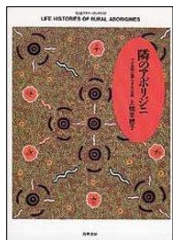
狭山市立図書館のティーンズ担当が10代のみなさんにおすすめするブックリストです。  
第6号 Menu テーマ 「隣にいと、世界が広がる」

2025年12月15日発行

B  
O  
O  
K

M  
E  
N  
U

## 『隣のアボリジニ 小さな町に暮らす先住民』

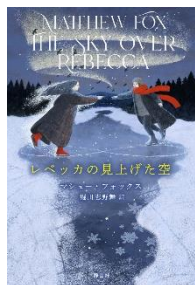


上橋 菜穂子／著  
筑摩書房 J382 ヲ



先住民アボリジニのいる土地に白人が移り住んだオーストラリア。自然に生きるイメージを持たれがちなアボリジニだが、白人とともに町で暮らす者も多い。白人とは違う存在として扱われながら、もとの伝統を失った彼らは典型的な「アボリジニ」でもない。時には差別され、時には友人となる彼らの姿を、白人の目線とアボリジニの目線それぞれから描く。

## 『レベッカの見上げた空』



マシュー・フォックス／作  
堀川 志野舞／訳  
静山社 JC フ



ある夜カーラは、凍った湖の上に浮かぶ無人島で夜を過ごす少女レベッカを目撃する。その後、戦車とレベッカの幻を見たカーラは、現代を生きる自分と第二次世界大戦中を生きるレベッカの時空が、夜の湖でだけ繋がっていると気付く。島に身を隠す彼女を飢えと戦争から助けられるのは、自分しかない。

## 『ぼくたちの卒業写真』



天川 栄人／作  
くまおり 純／絵  
文研出版 JF テ



実家の写真館が卒業アルバムの撮影を担当している蔵木は、人気者の星野に、個人写真を自由に撮らせてほしいと頼まれる。個性が際立つものにしたいという星野は、蔵木の父を説得し、蔵木も憧れのカメラで撮影できるという誘惑に負け、2人で個人写真を担当することに。人付き合いが苦手で人物写真を避けてきた蔵木に、カメラマンが務まるのか？

## 『一〇五度』



佐藤 まどか／著  
あすなろ書房 JF サ



イス職人の孫である真は、編入先の学校で、変わり者と噂の早川に声をかけられる。自分と同じくイスに興味があるという彼女は、祖父のライバルであるイス職人の孫娘だった。真を一流大学に進学させるためイス作りに反対する父に内緒で、真は彼女とタッグを組み、イスのデザインコンペに挑戦することに決めるのだが…。

## 『カーテンコールはきみと 演劇はじめました!』



神戸 遙真／作  
井田 千秋／絵  
偕成社 JF コ



律希は中学入学と同時に憧れの演劇部に入るつもりだったが、顧問から廃部になるかもしれないと聞かされる。同じく入部希望の夏帆に声をかけられ、2人で演劇部を立て直すべく、新入生歓迎公演をすることに。主役をやることになった演劇初心者の律希だが、本番まで残り2週間しかない！

## 『探検家』

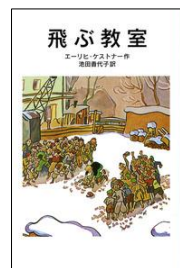


キャサリン・ランドレル／著  
越智 典子／訳  
ゴブリン書房 JF ラ



4 人の子どもたちを乗せた飛行機がジャングルに墜落した。傷だらけで目を覚ました彼らは、朽ちかけたかくれがを発見し、どうにか修理したものの、水も食料もない。子どもたちだけで生き延びなくてはいけないというのに、言い争いが絶えない 4 人。果たしてアマゾンから脱出することはできるのか？

## 『飛ぶ教室』



エーリヒ・ケストナー／作  
池田 香代子／訳  
岩波書店 JB ケ



クリスマス目の寄宿学校で、劇『飛ぶ教室』の稽古が始まった。その直後に起こった宿敵・実業学校による襲撃拉致事件。人質と奪われたノートを救出するために、劇のメンバーたちも、仲間とともに町へ駆け出した。その後も起こる様々な事件を乗り越えていく 5 人の少年、そして先生たちは、どんな絆で結ばれるのか。

## 『キャプテンマークと銭湯と』



佐藤 いつ子／作  
佐藤 真紀子／絵  
KADOKAWA JF サ



周斗がサッカークラブのキャプテンから外され、かわりに強豪チームから移ってきたばかりの大地が新キャプテンになった。まっすぐ家に帰る気になれない周斗は『楽々湯』と書かれたのれんを見つける。祖父との思い出の銭湯に入ると、懐かしさと湯の熱さで心も体もほどけていった。苦い気持ちでサッカーを続ける周斗は、オフの日は楽々湯に通うことに。